とうきょう
すくわくプログラム

１歳児クラス

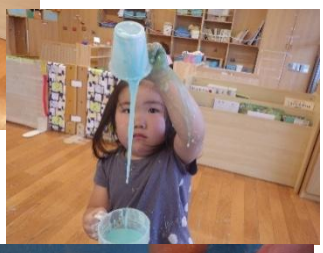
～「変化」を楽しむ～

一年のねらい：
実際に触れ・やってみることで子ども達の豊かな表現や好奇心、感性を刺激し次への興味関心を育んでいく。

～色～

『感覚・発見』
片栗粉や新聞等、身近な素材が水を加えることによって変化する不思議さを触れながら感じる。

≪１回目≫７月２３日（水）
活動
・片栗粉の感触遊び
準備物
・片栗粉・食紅　・お皿・カップ・スプーン



以前から活動で片栗粉に触れ、変化や不思議さを感じている様子でした。今回は道具を用意する事で、手では取りにくい片栗粉をカップですくい上げる様にしながら集め、上から垂らしながら下に落ちてくるのをじっと待っていました。いつも色を混ぜずに触れていましたが、今回食紅で色を付けると「うぁ～かわっていく」「まぜるときれいになったよ」等、自分の発見や気付きを言葉にすることで他の子ども達の気付きになっていた。

≪２回目≫　７月２４日（木）
活動：片栗粉の感触遊び　２回目
準備物：・片栗粉・タライ　・カップ
・食紅　・スプーン

前日の片栗粉が乾燥してパラパラになっていました。そこに水を加えると段々変化が始まり「なんかかわってきた」「とろとろしてる」等、子ども達と一緒に不思議に思いながらレンゲで削りました。前日は一色だけでしたが、今回は黄色と緑を加え、カップの中で違う色が混ざり合う事で色が変わっていくのを観察していました。

『思考・試す』
道具を使って水を運ぶ、色を混ぜる「こうしたらどうなるかな？」という自分なりの仮説を持って取り組む。

≪3回目≫　8月２８日（木）
活動：この実で色水作れるのかな？
準備物：水　・バケツ　・タンク　・色が出る木の実

園庭で色が出る実を発見していた子ども達。始めは集めているだけでしたが、『潰したら色が出るかな？』と呟きながら目の前で潰して見せると赤い液が出てくることを一緒に発見しました。『ここに水入れたらどうなるかな？やってみる？』と聞いてみると「やる」という返事が返ってきました。水をいれる前に『どんな色になるかな』と投げかけをしながら水を入れると「あ!?いろがかわった」「あかになった」と色の変化にも気づいていました。

考察：保育士の声掛けで“こんなこともできるんだ”と遊びの幅や興味関心が広がり、“どうなるのかな”とワクワクしながら主体的に関わることで、自分でも試したり・工夫してみたりする姿が育つように日常の遊びの中に種をまいていく。次は子ども達に「他にも色が出そうなものあるかな」と尋ねどんな反応が返ってくるかを見ていこうと思います。

～変化と感触～

≪4 回目≫8 月２９（金）
活動：新聞紙と水を混ぜたらどうなる？
準備物：新聞、タライ、水

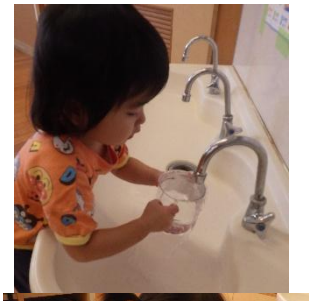
新聞紙ちぎりをしてからタライに新聞紙を集めて水を入れました。 いつもは新聞紙をちぎってお終いでしたが、集めて水を入れようとすると『え!?みず？』と驚いたような顔で保育士がすることを観察していました。水を入れても最初は手を入れることを躊躇していましたが、保育士が手を入れてこねて見せると、どんどん手を入れてこね始めていました。こねるたびに形が変わっていくのを感じながら『つめたい』『なんかやわらかくなってきた』と感覚を確かめながら言葉で表現していました。触れていくうちに握ったモノを手のひらの上で叩き始め『ハンバーグできた』『おにぎりです』と、表現が広がっていました。

考察：『センスオブワンダーの知ることは感じることの半分も重要ではない』と言っているように知識よりも感じて体験した事で次への表現が生まれてくると感じました。物的環境も重要ですが、人的環境の大人が共感的に関わる事で子ども達のつぶやきが沢山生まれると実感しました。今回子ども達との会話では『そうなんだ』『どんな感じがする』『面白いこと見つけたね』と共感する声かけを心がけました。

～量と重さ～

≪５回目≫８月２９日（金）
活動：やってみよう

準備物：ビーカー・新聞紙・タライ



初めは大人が水を入れていましたが「いれてみたい」と子ども達も興味を示していた。分かりやすい透明のビーカーに線を書き「目印のところまで」と伝えいざ挑戦。初めは入れ物から溢れるぐらい水が入ってしまい歩くたびに溢れていました。『多かったみたいだね。ちょっと減らしたほうがいいね』と、水を入れ終わったタイミングで声をかけました。少し減らし真剣な表情で慎重に運んでいました。次からは自分で気にして入れる姿へと変わっていました。その姿を見て他の子も刺激され『やってみたい』が広がり順番で水を入れていました。

考察：子ども達の『やってみたい』という時が学びのチャンスだと思いました。１歳だからではなく子ども達の育ちを見ていくことでその子なりの“できた”を育み主体性の芽が育まれていくと感じます。結果ではなくプロセスを大切にしながら、小さな失敗を沢山経験しながら『こうしたらいいかも』を育てていこうと思います。

『表現・共有』
窓や腕に絵の具を塗ってどんな色になるか試し表現する姿や、友達の表現を“おもしろそう”と真似をして一緒に楽しさを共有する。

～色・表現～

≪６回目≫９月１８日（木）
活動：絵の具に触れてみよう

準備物：絵の具、ローラー、刷毛、お皿、模造紙、ダンボール、ブルーシート

用意の段階から興味津々で覗いていた子ども達。いざ始めると最初に絵の具に手を伸ばすのを躊躇する子が多くいました。２人の子が絵の具をつけ始めると他の子も続いていました。初めは上品に絵の具をつけ紙に表現していましたが、段々と大胆になっていきました。保育士としては『よしよし。ようやく表現が面白くなってきた。』と心の中で思っていました。「みてみてつぶつぶにした」と１人の子はスプーンを使い絵の具を垂らして粒になることを発見していたり、二色を腕に付け混ぜることで色が変化することを発見していたりしました。二つ道具を持ち表現を始めると中には三個持ち表現を始める子、足を使って表現を始める子とどんどん表現が広がっていました。１人の男の子が窓ガラスに手をつき色がついてしまい、本人は“まずい“という表情をしていました。しかし、『綺麗な色になるね。いいとこ見つけたね。』と肯定的な言葉がけに戸惑っていましたが、保育士も窓に色を付け出すと一緒に表現を始めていました。子ども達は大人の何気ない言葉がけをとても敏感に感じとり、表現を広げもするし潰しもするのだと感じた。

≪７回目≫１０月１５日（木）
活動：絵の具に触れてみよう　二回目
準備物：絵の具、ローラー、刷毛、お皿、バット、模造紙、ダンボール、ブルーシート

絵の具に触れる活動が二回目だったこともあり、初めから絵の具の入ったバットに両手を入れ両手に付ける姿や、他の色と混ぜ合わせ新しい色を作り出し手で模造紙に模様を付けて表現をしていました。経験を積み重ねたことで一回目よりも大胆になっていた子ども達でした。

考察：今回の絵の具遊びをしていく過程で、窓ガラスや壁に絵の具をつける姿があったが、それを止めるのではなく『面白い表現』と捉えることで、光の変化で色合いが変わる事に気付きそこから“ちがういろはどうなるのかな”と表現が広がっていた。子ども達は全身を使いながら色と関わり、“こうしたらどうなるかな”と試行錯誤しながら発見し面白さを自分で見つける事で集中して取り組んでいた。表現が広がるには十分な時間と場所、子どもの思いを受け止めていく人的環境（大人）がとても大切だと感じた。

≪振り返り≫

１年の活動を通して“どうなるんだろう・ためしてみたい”と子ども達自身から出てく好奇心や発想力で『変化』にワクワクしながら取り組んでいる姿が見られた。やり方を教えるのをぐっとこらえる事で子ども達の試行錯誤に火がともり自分で考え、工夫し、じっくり取り組むことで『学びの芽』や『探究活動の土台』が育まれていると感じた。これからも一人ひとりの『やってみたい』という心の動きに寄り添い、小さな失敗を楽しみながら豊かな感性を育めるプロセスを大切にしていきたい。